

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 216

2022・11・30

鐘つけば银杏ちるなり建長寺

—夏目漱石—

建長寺・円覚寺の宝物風入が行われ、鶴岡八幡宮は七五三祝いの家族連れで和やかに華やぎました。

秋を惜しみつつ霜月が終わります。

今年は「鎌倉殿の13人」効果で

例年に増して賑わった鎌倉。

残すところ一か月となり

新しい年を迎える準備が始まります。



○ CONTENTS ○

PAGE

☆ 市制 100 周年にむけて、今すぐ市史編纂委員会のたちあげを!!	…1
☆ 新庁舎等基本計画・現地利活用基本構想について 長尾 正	…2
☆ 今改めて考えたい『図書館の自由に関する宣言』を!!	…3
☆ 全国図書館大会の分科会で事例発表しました	…4
☆ 文部科学省、総務省、国立国会図書館より回答がとどきました	…5
☆ 「おしゃべりランチ会」でのおはなし会報告 ②	…6
☆ 二階堂子育てサロン 赤ちゃんのためのおはなし会	
☆ 第2回ファンタスティック☆ライブラリー111実行委員会報告	…7
☆ 築地外国人居留地跡(現 東京都中央区明石町)をたずねて	…8
☆ 松坡先生をめぐる人々 9 陸奥廣吉 袴田 潤一	…9
☆ 第24回かまくら市民活動フェスティバル WE ARE OPEN!	…10
☆ 総会のお知らせ／図書館からのお知らせ／銀幕情報	
☆ ポラ協報告／協働部会報告／寄贈本紹介／活動日誌	…11
☆ 事務局から	…12

市制 100 周年にむけて、今すぐ市史編纂委員会のたちあげを!!

鎌倉市は令和 21 年に市制 100 周年を迎えます。この記念すべき大切な年にむけて『鎌倉市史』が新しく編まれることを願い、11 月 25 日、当会は松尾市長に要望書を提出しました。(要望書(写)添付資料④)

昭和 34 年の市制 20 周年にむけて磯部市長(当時)によって市史編纂が発議されたのは昭和 26 年。翌 27 年、引き継いだ草間市長(当時)によって「市史編纂委員会」が立ち上がり、その後 8 年の年月を要して『鎌倉市史』全 6 巻が完成しました。続いて昭和 55 年には「鎌倉開府八百年記念事業」として企図された『鎌倉市史 続編』全 7 巻刊行のために「市史編さん委員会」が再発足し、その完成は 14 年後の平成 6 年のことでした。市史編纂がいかに人と時間を要する地道な仕事であるかを物語っています。

残念ながら、鎌倉ではその後に続く市史が発行されないまま過ぎていきます。住まう街の歴史を後世につないでいく仕事は、今を生きる市民一人ひとりに課せられた責務でもあります。次世代へのかけがえない贈り物として作成し、後世に手渡していきたいものです。

県内では、横浜市が昭和 33～57 年『横浜市史』全 33 巻を編んだ後、時を置かず次の市史編さんに取組み、16 年の月日をかけて『横浜市史Ⅱ』全 16 巻を刊行しています。横須賀市でも『横須賀市史』刊行の後ほどなくして『新 横須賀市史』本編全 15 巻と資料編補遺に着手しています。このように他自治体では、それぞれの街の歴史書を見直し、間違いを正し、新しい史実を書き足しつつ語り継いでいます。鎌倉市のリーダーである市長には、ぜひこの度の要望を前向きに受け止め、『新 鎌倉市史』編纂委員会発足への道すじを示して頂きたいと願っています。(賛同団体一覧 添付資料⑤)



新庁舎等整備基本計画や現在地利活用基本構想策定への意見募集に際し、「図書館」に関するパブコメが数多く寄せられました。図書館が市民にとっていかに身近で重要な存在であるかが伺われます。TOTOMO では高い関心をもって今後の推移を見守り、折々に意見を発信していきたいと思えます。

まず初めに、広域利用者でありながらパブコメ対象者ではなかった藤沢市民の声をお届けします。

『鎌倉市新庁舎等整備基本計画』、『鎌倉市市庁舎現在地利活用基本構想』を読んで思ったのは、図書館の重要性の再認識でした。

フリーランス IT 技術者 長尾 正
(現在 Jaxa とビッグデータの共同研究中)

藤沢市民で、藤沢にも友の会をつくりたいと思って、図書館とともだち・鎌倉の会合に見学で参加したものです。視点が新鮮だということで、今回、感想をかかせていただくことになりました。機会をお与えくださった会の方に感謝いたします。

感想は、次の4つの項目にまとめました。

○基本的な価値の共有 イヤイヤよりワクワク

新庁舎移転のプロジェクトの進行は、人が行うものです。市の職員の方や、アカデミック・リソース・ガイドの方は、どのような価値観で、プロジェクトをすすめるのでしょうか？ 『鎌倉市新庁舎等整備基本計画』および『鎌倉市市庁舎現在地利活用基本構想』からは、当事者がワクワク感を持って進行している感じが少し不足しているように感じました。

○図書館の重要性 地域の知的基礎体力を支える重要な基盤

全体的に図書館の重要性が強調されていないようです。図書館は、地域の知的基礎体力を支える重要な基盤だと思います。大学や企業の研究所などが少ない鎌倉市にとって、隣接の藤沢市よりも重要な役割を果たすのが鎌倉図書館ではないのでしょうか？ 鎌倉市内の教育機関、特に大学とは共同研究を行なうことまでも視野にいれても良いのではないのでしょうか？

○調査の重要性 図書館のリファレンス機能をもっと活用

もっと視野をもった幅広い調査分析に基づいても良いかなと思いました。新庁舎移転の関連団体として、UR、藤沢市、JR などがあります。また、庁舎移転の例として参考になる自治体（海外も含め）は多々あるでしょう。人流のデータは、オープンデータになっていて利用可能です。図書館のリファレンス機能でこれらはかなり調査可能です。現時点でも、日経テレコンなどのデータベースを導入すれば、より詳細な情報も容易に入手できるのではないのでしょうか？

○リアル的重要性を深掘り

単なる情報だけなら、デジタルですみます。リアルな施設の重要性の位置づけは大きく変わっています。例えば、市の施設の各支所で、流山市の送迎保育ステーションの機能を持たせることも可能です。人や物の移動は、リアルでないとできません。そして、図書館におけるリアルは、思いがけない本の出会いがあることです。鎌倉図書館の選書のセンスは良いものだとおもっています。『はじめアルゴリズム』があったのには感動しました。デジタルはリアルの価値を高めるためにできることはたくさんあります。全体的に、もう少しリアルの価値を深掘りしてほしかったと思いました。

今改めて考えたい『図書館の自由に関する宣言』を!!

今年 8 月 30 日、内閣官房の依頼を受け文部科学省が全国の学校図書館・公立図書館・教育委員会に「北朝鮮当局による拉致問題に関する図書等の充実に係る御協力等について」の依頼文を出しました。これは『図書館の自由』を揺るがしかねない問題ではないかと波紋を広げています。

朝日新聞は11月4日にこの文書について取り上げ、同16日にも続けて紙面を割いて言及しています。『図書館の自由に関する宣言』は1954年5月日本図書館協会の総会で制定されました。戦前・戦中に思想善導を担った図書館の歴史が背景にあり、終戦後その反省に立って出来た宣言です。また「図書館への介入は許されない」と文部科学省を批判する文を社説で取り上げている他紙もあります。

拉致問題は早急に解決を要する重要課題ではありますが『図書館の自由に関する宣言』を熟知している文部科学省がこの様な文書を全国に発信していることに強い違和感を覚えます。この依頼文を受けて戸惑い、危機感を持った団体は多く、日本教職員組合、日本出版者協議会、図書館問題研究会、学校図書館問題研究会などが文部科学大臣あてに撤回を求める要請文、抗議文を提出しています。文部科学省地域学習推進課は「図書館向けに今回のような文書を出すのはテーマを問わず初めて」「内閣官房拉致問題対策本部から頼まれたから」同課図書館・学校図書館振興室は「図書館の自由を侵害する主旨でない。撤回の予定はない」また拉致問題対策本部も「毎年力を入れている若者の啓発策だった。お願いにすぎず問題があるとは考えていない」との見解を示しています。これが発端となり選書に対し国が介入するようになれば『図書館の自由』はどうなるのでしょうか。今改めて図書館とは市民にとってどの様な存在であり役割を担っているかを考えます。権力に介入されることなく安心して利用出来る施設であることを強く願っています。

(阿部光世)

【参考資料】

図書館の自由に関する宣言

1979年改訂（主文）

図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することを、もっとも重要な任務とする。

この任務を果たすため、図書館は次のことを確認し実践する。

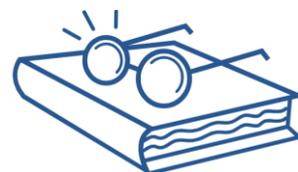
- 第1 図書館は資料収集の自由を有する。
- 第2 図書館は資料提供の自由を有する。
- 第3 図書館は利用者の秘密を守る。
- 第4 図書館はすべての検閲に反対する。

図書館の自由が侵されるとき、われわれは団結して、あくまで自由を守る。

公益社団法人 日本図書館協会



中央図書館 1F に掲げられた「図書館の自由に関する宣言」ポスター。同様のポスターは鎌倉市の図書館 5 館すべてに掲示されています



全国図書館大会の分科会で事例発表しました



第 108 回全国図書館大会群馬大会が本年 10 月 6 日、7 日に開催されました。この大会の第 16 分科会「市民と図書館」で鎌倉市での司書採用の復活について事例発表しましたので、それを中心に報告します。

2020 年以降、新型コロナの影響で大会はオンライン形式で開催されています。したがって事例発表も動画配信というかたちになります。そのためカメラに向かって話さなくてはいけないので事前に口述原稿を作り、その内容を記憶しておく必要があります。年齢的にはつらい作業でした。また映像を見る側にとっては発表内容の要旨を画面でみられると理解しやすいので、パワーポイントを使ったプレゼン用の画像作成も必須です。というわけで事前の準備が大変でした。

生配信ではないので質疑の時間はなく、与えられた 20 分のなかで簡潔でわかり易く、しかも要点をきちんと押さえることが求められます。そして完成した動画をレジュメや付属資料とともに大会実行委員会に届けるメ切りは 8 月末だったので慌ただしいスケジュールでした。パワーポイントを作成してくれた TOTOMO のメンバーや動画の収録でお世話になった図書館友の会全国連絡会(以下、図友連と略)の溝井正美さんにはこの場を借りて感謝申し上げます。

愚痴はこれくらいにして第 16 分科会の概要を紹介します。この分科会は図友連が主催したもので、「住民が望む図書館の実現に向けて」というサブタイトルのもとに、二つの基調講演と三つの事例発表で構成されています。

基調講演は、図友連事務局長・船橋佳子さんによる図友連の活動紹介(国への要望書・要請行動や課題別プロジェクト班の活動など)、もう一つは武雄市や多賀城市を事例に指定管理者制度を導入した図書館の現状を考察し、図書館が商業施設の附属物になってしまっている実態を明らかにした多賀城市立図書館を考える市民の会・尾形陽子さんの報告でした。

事例発表は、各地域での市民による具体的な活動を報告するものです。ひとつ目は町田市が図書館の館数を減らし(鶴川図書館を廃止)、併せて指定管理者制度を導入するという動きがあり、それに対する市民の運動によって市の対応にある変化をもたらしていること(発表者・町田の図書館活動をすすめる会・鈴木眞佐世さん)、ふたつ目は宇都宮市立図書館のサービス件数の推移を見ると導入された指定管理者制度の有効性は見られないことを示し、市民による問題提起によって市は改善に向け検討する姿勢をみせ始めていること(同・図書館の指定管理に関する学習会・北村恭子さん)、最後に私から鎌倉で 30 年ぶりに司書採用がされることになった経過と TOTOMO の取り組みを紹介しました。

このような分科会の内容を見ると、図書館を取り巻く状況は厳しいものがあるものの、発足して18年になる図友連の国への働きかけや図友連に結集する各地域の市民の継続的で粘り強い活動の積み重ねが少なからず結果を出していることがわかります。

分科会の発表内容については記録集が出される予定になっていますので、詳しく知りたい方はそれをご覧ください。

なお、この分科会で発表した鎌倉の事例については「としょかん文庫・友の会」発行の交流誌『としょかん』162号にも寄稿しました。図書館で閲覧できると思いますので、参考までに追記します。(和田安弘)



文部科学省、総務省、国立国会図書館より回答がとどきました

9月6日～9日に行った国への要請活動について前号 No.215 で報告しました。今号はその後の経過を報告します。回答（添付資料①～③）は図友連ホームページでも読むことができます。なお、図友連会員限定サイト（非公開）では、1時間以上におよぶ事務方とのやり取りも掲載されています。ご覧になりたいTOTOMO会員の皆様は事務局までお問合せくださるようお願いいたします。

① 文部科学省

<https://totomoren.net/blog/wp-content/uploads/monka-offstaff-mendan20221027-open.pdf>

公立図書館の主管である文部科学省の回答は「面談報告書」の形式で頂きました。公立図書館運営の責任は自治体にあり地方自治の観点から基本的に干渉はできないとしつつも、指定管理者制度導入や司書職員数の激減という根本的な昨今の課題を認め、「公立図書館の望ましい基準」改訂に関する言及があったことは一定の成果と考えます。また、読書バリアフリー法成立を受けて障害者サービス基本計画策定の進捗状況を願う担当職員からの積極的な発言は頼もしく、期待が膨らみました。公立図書館は税金で運営される公共施設です。だからこそ、社会的弱者、情報弱者への図書館サービスは、図書館が取り組むべき最重要課題ではないでしょうか。

② 総務省

https://totomoren.net/blog/wp-content/uploads/somu-youbo_20220906-ans0914.pdf

頂いた回答は予想した範囲の内容でした。一方事務方面談では、詳細な統計資料や関連論文を持参して説明に努めたこともあってか、図書館への指定管理者制度導入に関して様々な観点から検証していく必要性の理解は進んだと思います。

図友連では、「図書館への指定管理者制度導入はなじまない」と明言する「公共図書館プロジェクト」提言の推進を力強く語ってくださった図書議連会長の衛藤議員、活字文化議員連盟会長の上川議員や笹議員、5分でもと面談を提案して下さった浮島議員はじめ図書館行政にご理解のある議員の皆さんのご言やお力を頂きながら今後も引き続き声を上げていく予定です。

③ 国立国会図書館

https://totomoren.net/blog/wp-content/uploads/ndl-youbo_20220908-ans0928.pdf

要望の2項目について、非常に丁寧な回答をいただきました。鎌倉では使用していないようですが、全国の自治体図書館や学校図書館の多くは、TRC-Marc(マーク)(市販されている民間企業作成のMarc)を購入しています。その価格は各自治体や館種によって異なりますが、数十万から数百万の予算を要し、逼迫する図書館予算に大きな影響を及ぼしています。しかし、世界を見渡してみると、図書分類を民間任せにする国は見当たらず、国の責任で統一した図書分類がなされ、そのナショナル Marc は無料で提供されているのです。なぜ日本では国立国会図書館が作成する無料のJapan-Marc が広がっていかないのか？図友連では発足当初より図書館界の根本的な課題と捉え Japan-Marc の普及に取り組んできました。今回の回答で、改めてその入手方法が具体的に示されたことを評価したいと思います。また、国会図書館ではデジタルアーカイブの構築と拡充がここ10年ほどで画期的な進展を見せています。友の会としてその動きを応援するとともに、自治体図書館所蔵の貴重な地域・歴史資料との有機的な連携が尚一層進められるよう、引き続き見守っていききたいと思います。(阿曾千代子)



「おしゃべりランチ会」でのおはなし会報告 ②

9月15日（木）腰越行政センターにて

参加者：大山・杉崎・福田・星

2022年9月15日（木）腰越行政センターにて「おしゃべりランチ会」のおはなし会をしました。今回で2回目。ひこうせんメンバー4人で、湘南モノレール西鎌倉駅から歩いて到着すると、すでに担当の方々が準備をしていました。この時期は、10日が中秋の名月、当日も更待月^{ひげまちつき}ということで、会場の設えも「お月見」の余韻が残る素敵なものでした。

おはなし会は、ランチの前のお楽しみ企画。プログラムを紹介します。工藤直子詩集より「あいたくて」で始まり→大型絵本『花さき山』斎藤隆介→おすもう絵本『はっきょいどーん』やまもとななこ→前回は好評の紙芝居『かわださん』谷川俊太郎→お月見ネコちゃん登場紙芝居『ニャーオン』都丸つや子→絵本『生きる』谷川俊太郎→『シルバー川柳』（全国有料老人ホーム協会／編）からクスッと笑えるいくつかを紹介→逗子の昔話紙芝居『石になったいも』と盛りだくさんでした。



好評の積みあげ話『かわださん』

皆さんよく聞いてくださって、こちらも楽しい気持ちで一杯になったおはなし会でした。（大山文子）

二階堂子育てサロン 赤ちゃんのためのおはなし会

10月7日（金）鎌倉青少年会館にて

参加者：黒瀬・杉崎・星

雨降り寒空の日でしたが、会場の中は、ほっこりあたたかな雰囲気にもまれて楽しい時間が過ごせました。3組の参加者と、係の民生委員の方も、手遊びお話の世界に参加して下さり、うれしいひととき、ありがとうございます。愛情あふれる室内環境にも心が癒されました。（星美由紀）

プログラム

- ・はじまるよ♪（歌と手遊び 導入として）
- ・ちびゴリラのちびちび（絵本）
- ・おおきくおおきくおおきくなあれ（紙芝居）
- ・まなちゃんのいす（絵本）
- ・ココロさんとあめふり（絵本）
- ・げんこつやまのたぬきさん（絵本と手遊び）
- ・おつきさまこんばんは（絵本）
- ・ニャーオン（紙芝居）
- ・さよならあんころもち♪（歌と手遊び）

おまけで、『ごろん』の紙芝居

・・・紙芝居のことなど説明ついでに



紙芝居『ニャーオン』



お天気に合わせて
『ココロさんとあめふり』

第2回 ファンタスティック☆ライブラリー111 実行委員会報告

9月29日(木) 於：中央図書館多目的室



第2回ファンタスティック☆ライブラリー111 実行委員会が、9月29日(木) 14:00~15:30 に三団体4名と図書館員3名の合計7名の参加で行われました。

まず、開催日が令和5年(2023年)2月4日(土)に決定しました。会場は、深沢学習センター3階ホールで、会場を4つに分割して利用することになりました。展示の説明会やおはなし会は時間差をつけて行うようにします。展示パネル、机、椅子など備品の借用希望数の確認ができるようリスト化して準備することになりました。

<各団体の企画について>

松坡文庫研究会：「田辺松坡『鎌倉風景拾弐帖』題：田辺松坡、画：大橋観籟^{かんらい}を詠む」逗子開成に保管されていたことがわかった『鎌倉風景拾弐帖』と田辺松坡について。滑川、稲村ガ崎、建長寺について展示予定。その他、袴田先生による動画撮影およびギャラリートークを予定。

かまくら女性史の会：かまくらの保育(続)展示および動画撮影。展示説明などについては、会にて検討。

図書館：図書館・図書館イベント紹介、写真集関連ギャラリー展示の案内、YA世代の参加を促すビブリオバトルやボードゲーム大会など検討中。新庁舎ができることもあり、注目される深沢での開催なので地下書庫や図書館ツアーができるとよいアピールになるのではないかとTOTOMOから要望をし、図書館として対応可能か検討してくれている。

TOTOMO：おはなしひこうせんのテーマはバリアフリーについてで、関連絵本などの紹介パネルの展示とおはなし会を予定。また、プレクストークの試聴、布絵本、マルチメディアデイズ、LLブック、大活字本、点字本など、インクルーシブ社会の実現に向けた図書館の取り組みの数々を紹介したいと考えている。図書館からの貸し出し可能な機器については、障害者サービス担当司書の島田さんから実行委員会終了後に説明を受けた。

なお、今回のF☆Lは鎌倉市身体障害者福祉協会の皆さんとコラボレーションして実施することがきまり、11月10日、図書館を含めた三者による打ち合わせを行った。(鎌身協から木村さんと内田さん、図書館から栗原館長、大槻さん、山本さん、島田さん、TOTOMOから阿曾、阿部、黒瀬、古矢、松本が参加)

広報かまくら令和5年1月号に掲載予定で、各団体の概要は11月15日までに図書館へ提出。展示予定の成果物および動画は、年末から年明け早々に各団体から図書館へ提出。(事前チェックやHPへの公開準備が必要なため)次回の実行委員会で展示内容の確認と当日のレイアウト案、スケジュール詳細などを詰めた後、図書館でチラシの作成やHPの作成などPRに入る準備を進めます。

来年度の実施については、学習センターが指定管理になり、利用にあたって使用料が発生するなどの不都合もあるため、令和6年1月28日(日)9時~18時を仮予約しましたが、休館日を利用した中央図書館全体を会場にイベントができないかなど検討することになりました。

次回の実行委員会は、12月15日(木)14:00~15:30 中央図書館多目的室にて。

TOTOMOからは、阿曾(松坡文庫研究会兼務)、松本、杉崎が参加しました。(杉崎敦子)

築地外国人居留地跡（現 東京都中央区明石町）をたずねて ～間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会主催 見学会「間島夫妻ゆかりの築地明石町」参加報告～

【築地外国人居留地とは】

「間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会」では、大正から昭和にかけて鎌倉に住み、旧鎌倉図書館・鎌倉国宝館の建設をはじめ英勝寺の山門の再建など鎌倉の教育文化施設のために多大な貢献をされた間島弟彦・間島愛子夫妻の遺徳を後世に伝える目的で活動をおこなっています。そのなかで、間島弟彦は、大正7年頃から12年に引き払うまで明石町に住み、日本橋駿河町に勤務し、週末は由比ガ浜の本邸で過ごしていたことがわかりました。

たまたま、2021年3月29日の朝日新聞の夕刊に「まちの記憶 明石町」という特集記事を目にし、間島弟彦が過ごした明石町を調べてみることにしました。

1858（安政5）年に江戸幕府と欧米5カ国と結ばれた修好通商条約によって開港・開市された土地に設けられた条約締結国の外国人の住居や通商のための専用特別区を「居留地」と呼んでいます。江戸（東京）が開市されたのは1868（明治元）年に明治政府になってからで、条約に基づいて現在の明石町地域を「築地外国人居留地」と決めました。

1858年に福澤諭吉が蘭学塾を開設し、1870年に女子学院、1874年青山学院、立教学院以降、雙葉学園、明治学院、暁星学院等のミッションスクールが次々に設立されました。そのほか、電信創業や指紋研究の発祥地などがあり居留地が後押しをし「日本の近代文化事始めの地」とも言われています。

1899（明治32）年の治外法権撤廃で「築地外国人居留地」は廃止され、1923（大正12）年の関東大震災で立ち並んでいた洋館は全て失われてしまいました。

現在は1920（大正9）年に設立された聖路加国際病院附属高等看護婦学校を母体とした聖路加国際大学だけがこの地に残っています。

【築地外国人居留地跡をたずねて】

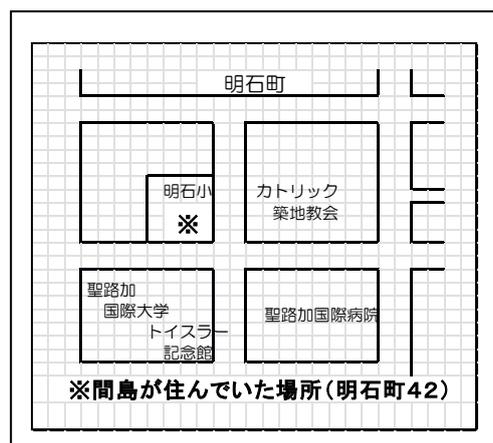
10月5日13時、あいにくの雨模様でしたが、会員8名は地下鉄築地駅に集合し、ほど近い東京都中央区明石町（築地外国人居留地跡）を訪ねました。大正時代に間島弟彦が6・7年過ごした明石町の特集記事を目にしたことで、この企画が生まれました。

築地駅に集合した一行は、会員の青木さんに紹介していただいた、聖路加国際大学の渡部先生の案内で聖路加国際病院トイスラー記念館を訪れました。

宣教医師ルドルフ・B・トイスラーはこの地に聖路加国際病院を開設しました。記念館をあとにし、渡部先生の案内で、明石町散策をスタートしました。

この周辺には、宣教師によって開設されたミッションスクール、福澤諭吉による蘭学塾などの発祥を記した石碑が点在しており、順番に確認しながら進みました。トイスラー記念館でいただいた当時の番地を記した資料によって、現在明石小学校がある場所に間島弟彦が住んでいたことが分かり、今回の企画の目的が一つ達成できたことにほっとしました。最後に、渡部先生の紹介で、ミズノプリンティングミュージアムを見学し、水野館長の印刷機、印刷技術の説明のおまけまでついたまち歩きは、暗くなり始めた17時過ぎに終了しました。

（平塚 優）



松坡先生をめぐる人々 9 陸奥廣吉

松坡文庫研究会 代表 袴田 潤一

鎌倉での松坡先生の大きな業績に関して、陸奥廣吉のことを紹介しない訳にはいきません。陸奥廣吉は共立学校(今日の東京開成)での田辺新之助の「教え子」であり、鎌倉女学校を経済的に支えた「恩人」であり、鎌倉同人会の活動を通じて鎌倉の文化に共に貢献した「同人」でした。

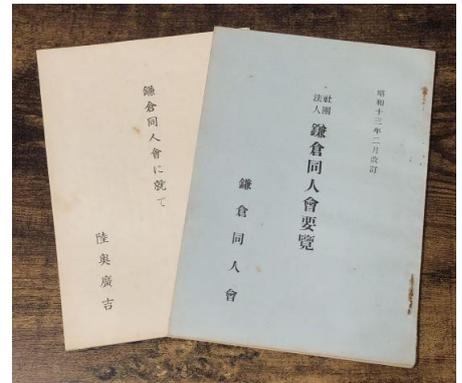
陸奥廣吉(1869~1942)は陸奥宗光の長男として生まれ、共立学校などで学び、1887(明治20)年イギリスに留学。1895(明治28)年外交官となり、ローマ、ロンドンなどに駐在しました。公使にすすみましたが、病気のため退官、鎌倉には明治末に居を構えていました。松坡先生が1904(明治37)年に創立した鎌倉女学校は、校長を兼務していた逗子開成中学校の七里ヶ浜ボート遭難もあって苦しい経営を強いられていました。当時、多くの私立学校は法人による経営ではなく個人の経営によるもので、鎌倉女学院は松坡先生個人のものでした。そうした苦境に支援の手を差し延べたのが陸奥廣吉でした。廣吉は1912(明治45)年に鎌倉女学校理事長に就任し、恩師松坡先生を支えました。翌年には高等女学校としての認可を得、校名を私立鎌倉高等女学校と改称、1915(大正4)年には古河家を継いでいた弟古河潤吉の遺贈金からなる雨潤会基金からの借入金で校地拡張を実現します。関東大震災後の新校舎建設や校地拡張、財団法人設立(1926年)における廣吉の援助を松坡先生は徳富蘇峰宛の手紙(1925.12.31)に認めています。

豫而御配慮相受居候鎌倉高等女学校之儀、陸奥伯之御援助ニ依り震災後、新校舎再築竣成、且校地擴張も出来、引続き財団法人ニ申請中ニ有之候。御影を以て多年宿望之目的を乍小規模達成致候儀、御悦被下度候。

廣吉も晩年、「自分がいろいろな事業に協力した中で、最も会心事とするのは鎌倉高等女学校のことであった」と述懐しています。

二人の協力があって鎌倉同人会が設立されたことも忘れてはなりません。同会は鎌倉で廣吉の病気を診ていた勝見正成(1859~1930)と廣吉が鎌倉の発展についての意見が一致し、それに大島久満次(1865~1918)らが賛同したことで1915(大正4)年に発足しました。廣吉は会の命名と発起趣旨書を恩師の松坡先生に依頼したのです。趣旨書には、

當局の施設を援助し或はその足らざるを補ひ内外呼應して一意此の地の發展改善を計らば眞に鎌倉をしてその美名に愧ざるの良郷たらしむるを得る断じて至難の事にあらずと信ずとあります。こうした精神に基づいて鎌倉同人会は今日でも鎌倉の文化的向上に大きな役割を果たし続けています。



最後に、『鎌倉同人会に就て』は同人会創設から陸奥廣吉の理事退任(1928年)までの記録

福岡日日新聞社の海外特派員としてブラジルにいた田原春次(1900~1973)宛の廣吉の書簡(1927.4.7)を紹介します。田原の現地への安着を喜ぶことを述べたのに続けて「鎌倉高等女学校の校長田辺新之助氏三男定氏當地方永住ノ目的ニテ渡航□□御紹介申上候」とあり、一部判読不能ながら、定さんの力になって欲しい旨が書かれています。定さんはこの年、海外興業株式会社嘱託員となりブラジルに渡ったのです。廣吉は恩師の子息の異国での生活を心配すると同時にその活躍を祈り、現地にいた田原春次に支援を依頼したのです。

第24回かまくら市民活動フェスティバル WE ARE OPEN!

11月21日から27日にMUJIcom 鎌倉で行われたイベントは、無事に終わりました。

TOTOMO では、SDGs フォトコンテストに合わせて、関連絵本を鎌倉市図書館に選書と貸出しをお願いして展示しました。また、ユニバーサル絵本（点字付き絵本）のユニリーフさんのワークショップに参加し、2月のF☆Lの展示につながるお話を伺えました。

12月に下記のイベントがあります。お誘いあわせて、ぜひご参加ください。

◎ 鎌倉中央公園での野外イベント（雨天中止）

12月3日（土）10時～15時 野外生活体験広場にて
石川安彦さん（元ラグビー日本代表選手）によるラグビーの体験会
竹や木を利用したワークショップ、自然観察ツアー、物販など催し多数！！

◎ 鎌倉生涯学習センターでのイベント

12月10日（土）10時～17時／11日（日）10時～16時
地下ギャラリーでの登録団体パネル展、1階ロビーでのSDGs フォトコンテスト展示と表彰式
3階、4階会議室でのワークショップ、ピロティでの物販などどなたでも楽しめる催しが目白押し！
TOTOMO では、パネル展示（間島の会のパネルもあります）とおはなし会で参加予定です。



図書館からお借りした絵本の
展示コーナー

2022年度 会員総会のお知らせ

日時：2023年1月29日（日）10:00～12:00

場所：鎌倉市中央図書館3階多目的室

*午後には、図書館障害者サービス担当の島田司書に講師をお願いし、バリアフリーに関する学習会を予定しています。
皆様のご参加をお待ちしています。

※なお、今後の感染状況等により、日程の変更もしくは開催方法が変更された場合は、再度ご案内いたします。

図書館からのお知らせ

鎌倉市では①市庁舎現在地に中央図書館を移転（利活用基本構想）②新庁舎に深沢図書館を移転（整備基本計画）の2点が検討されています。

鎌倉市図書館ではこれら新図書館に向け、京都橘大学教授・嶋田学さんをお迎えして図書館に関心のある市民の方のご意見を伺う学習会を計画しています。

◆日時：12月18日（日）9時半開始予定

◆場所：中央図書館（予定）

*参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。

かまくら銀幕上映会のお知らせ（主催：ドリーム・アーツ（03-5969-8081） 於：鎌倉芸術館小ホール

12/13（火）『ワン・セカンド 永遠の24フレーム』

1/10（火）映画『エルヴィス』と「桐生大輔オン・ステージ」 1/26（木）『オードリー・ヘプバーン』

◎前売り券：1000円（当日券：1300円） *1/10は2000円

◎上映時間①11:00～②14:00～（1/10は 11:10～映画/14:30～オン・ステージ）

☆受付で「田邊さんから聞いた」とおっしゃっていただければ、前売り料金でご覧いただけます



ボランティア連絡協議会報告

10月13日(木)と11月10日(木)に役員会、10月20日(木)に委員会を行いました。
その他、10月14日(金)には富士宮市ボランティア連絡会の皆さんが、11月7日(月)には松戸市ボランティア連絡協議会の皆さんが視察に来られ、社協職員とともにボラ協役員が対応しました。

松戸市には拡大写本ボランティアグループの方がいらしたので、活動内容をお聞きすることができました。拡大写本は大活字本よりもさらに大きな字で書きます。このグループでは主に小中学校の生徒の為に制作しているそうです。



点字一覧表と点字器

11月10日の役員会の日には、お昼休憩時間に、点訳奉仕団に所属する役員から点字について教わりました。点字は表音文字だということ、右から左へ打ち、左から右へ読むということを学び、実際に名前を打ってみました。細かい作業ですが、また挑戦してみたいと思います。(黒瀬聖子)

協働事業推進部会報告

10月19日(水)と11月15日(火)に協働事業推進部会を行いました。どちらにも、鎌倉市地域のつながり課からの出席はありませんでした。

協働事業は今年度から「つながる鎌倉エール事業」として生まれ変わり、スタートアップコースは「鎌倉竹部」「明月川・谷戸の会」「西鎌みんなの家」が、協働コースは「mama care 湘南」「team HINATA」「まるまーる」が選ばれました。当部会員は手分けしてこれらのグループの活動を見学し、今後の支援に繋がりたいと考えています。(黒瀬聖子)

◆ 寄贈本紹介 ◆

鎌倉市在住の彫刻家、岩田実さんから彫刻作品集「美の世界」をいただきました。岩田さんの作品は市内外で拝見することができますが、2003～2017年に鎌倉駅東口に設置されていた白御影石の少年二人像「友情」をご記憶の方は多いと思います。今この像は、東逗子駅ロータリー広場に設置されています。

2009年には中央図書館にブロンズレリーフ「あやとり」が設置され、今も来館者を優しく迎えています。お隣の福祉センターにも大理石レリーフ「あやとり」が設置されており、こちらは屋外ですので気軽に拝見することができます。

この作品集には、その他多くの作品が掲載されています。ご覧になりたい方は事務局までご連絡ください。



TOTOMO活動日誌 (9/29~11/30)

9/29	ファンタスティック☆ライブ 実行委員会出席	11/10	ファンタスティック☆ライブ 打ち合わせ
10/5	間島の会見学会		ボランティア連絡協議会役員会出席
10/7	二階堂子育てサロンおはなし会	11/15	協働事業推進部会出席
10/6, 7	全国図書館大会参加(オンライン配信~11/30)	11/17	おはなしひろくせん勉強会
10/12	鎌倉・文化の森との懇談	11/21~27	NPOフェスティバル MUJI.com 鎌倉参加
10/13	ボランティア連絡協議会役員会出席	11/24	教育委員会定例会傍聴
10/14	峠の過客展見学(ビックリハウス)	11/25	西鎌倉子育てサロンぽっけおはなし会 市長に市史編纂の要望書提出
10/19	協働事業推進部会出席	11/28	図書館協議会傍聴
10/20	おはなしひろくせん勉強会		NPOフェスティバル実行委員会出席(Zoom)8回
10/20	ボランティア連絡協議会委員会出席		ロビー活動 随時
10/27	NPOフェスティバル参加団体説明会参加		定例会7回(10/12, 19, 26, 11/2, 9, 16, 30)
10/28	読書会		

TOTOMO COMING NEXT! 事務局からのお知らせ



今年も残りひと月となりました。今年度もTOTOMOの活動にご協力ありがとうございました。

第25回 2022年度会員総会

日時：1月29日(日) 10時～12時 場所：鎌倉市中央図書館3階多目的室
今までの活動を振り返り、今後の活動につなげるために今年度も会員総会を行います。
詳しいご案内は、会報217号に添付する総会資料をご覧ください。
午後には、バリアフリーに関する学習会を予定しています。
お問い合わせは、黒瀬 (TEL/FAX 0467-22-8545) まで。

おはなしひろくせん勉強会

日時：12月15日(木) 10時～12時 場所：福祉センターにて
テーマ：ファンタスティック☆ライブラリー展示パネルの準備をします。
お問い合わせは、黒瀬 (TEL/FAX 0467-22-8545) まで。

読書会

日時：12月23日(金) 13時～14時半 場所：NPOセンター鎌倉にて
テーマ本：司馬遼太郎著『街道をゆく42 三浦半島記』(朝日文庫)とフリオ・リヤマサーレス著『黄色い雨』(河出文庫)です。
お問い合わせは、杉崎 (TEL/FAX 0467-41-4956) まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日時：2月1日(水) 13時半～16時半 場所：NPOセンター鎌倉にて
お問い合わせは、鈴木 (TEL 090-4728-5242) まで。

第24回かまくら市民活動フェスティバル WE ARE OPEN!!

MUJIcon 鎌倉でのイベントは無事終わりました。TOTOMOは、鎌倉生涯学習センターでパネル展示とおはなし会をする予定です。

- ・鎌倉中央公園 12月3日(土)(雨天中止)
- ・鎌倉生涯学習センター 12月10日(土)・11日(日)

※詳細は、NPOセンターのHPをご覧ください。

お問い合わせは、NPOセンター鎌倉 (TEL 0467-60-4555) まで。

お誘いあわせの上、
ご参加ください。

※上記の各会については、COVID-19感染の状況により、変更になる可能性があります。

参加される方はTOTOMOのHPやFBでご確認いただくか、お問い合わせください。

※会計より・年度末が近づいています。お立て替えいただいた分の精算が済んでいない方はお早めに杉崎 (TEL/FAX 0467-41-4956) までご連絡ください。

★図書館友の会全国連絡会

要請活動の報告書作成を終え、次は「公共図書館プロジェクト」の提言を国へ届ける活動に取り組みます。

お問い合わせは、阿曾 (TEL/FAX: 0467-45-5731) まで。

編集後記 * * * * *

☆コロナはまだ油断できませんが、おはなし会が開催されたり、フェスティバルなどのイベントも集客ができるようになり、楽しい報告記事が増えた一年でした。(A.S)

☆昨年11月発行の会報では「第6波が来ないことを祈る」との記述が。なのに一年経った今、第8波が懸念されています。来年こそはコロナに憂えることなく年末を迎えたいものです…。(M.S)



題字・巻末カット：小島寅雄

図書館とともだち・鎌倉(代表：和田安弘)

事務局：〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34(黒瀬) TEL/FAX 0467-22-8545

HP：<http://totomo.sakura.ne.jp> E-mail：toshokantomodachi@gmail.com

2022年11月30日発行

編集：阿曾・黒瀬・杉崎・斉木

